



兵庫県丹波県民局県民交流室たんば共創課
(シリ丹バレー推進協議会事務局)

〒669-3309丹波市柏原町柏原688
TEL 0795-72-0500(代表)
FAX 0795-72-3077

<https://silitan-valley.com/>

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/area/tanba/>



シリ丹バレー



丹波県民局



TAMBA Innovative Challenge
シリ丹バレー

あきらめ
ない
努力

TAMBA
Innovative
Challenge
2023

シリ丹バレーの新しい取組がはじまります
2023年度新規プログラム



兵庫県丹波県民局・シリ丹バレー推進協議会

地域に新しいビジネスコミュニティをつくろう

「丹波型事業共創コミュニティ」の形成

生業のある暮らし、暮らしのなかの生業
 かつてはすべての居住者が農林業を生活の糧とし、生業と暮らしが結びついていた丹波の集落。
 その集落に新しい生業(ビジネス)を生み出し、生業と暮らしが再び結びつくことで、集落の活気はよみがえります。
 ビジネスコミュニティ(事業共創コミュニティ)の形成は、そのための第一歩です。

>>> 丹波型ビジネスコミュニティ(事業共創コミュニティ)とは

新しいビジネスを興し、展開するためのコミュニティです。ビジネスに関わりたい内外の人々を受け入れる、オープンなコミュニティです。それは、地区(小学校区等)を単位とするローカルなコミュニティであるものの、そのメンバーシップは地理的境界を超えて広がり、仮想(デジタル)と現実(リアル)の世界の双方にまたがっています。

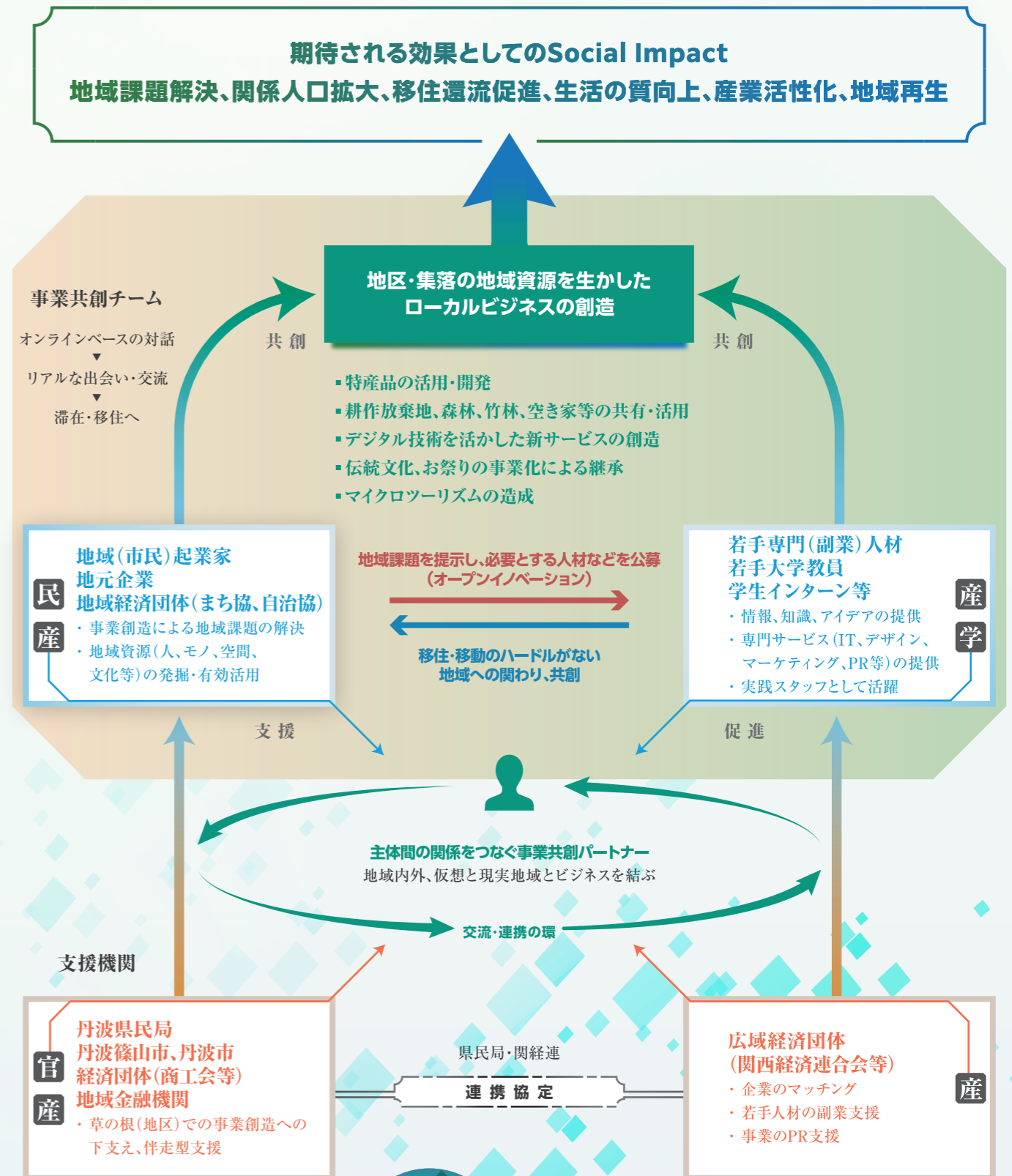
丹波型とは、地域主導ということ。第三者(中間支援機関など)ではなく、地域の人が主体的に事業を発意し、コーディネート、運営していくのが、丹波型ビジネスコミュニティの特色です。また、ビジネス創造にあたって、地域にあるもの、地域の固有価値(人、文化、ストック、場・空間)を活かすことも、丹波型の特徴です。

>>> 誰がメンバーなのか?

地域人材	地元の起業家、事業者(企業)、地域団体(まち協・自治協)関係者など
外部人材	若手専門(副業)人材、若手大学教員、学生などを想定しています
支援機関	行政(丹波県民局、丹波篠山市、丹波市)、経済団体(商工会等)、地域金融機関、広域経済団体(関西経済連合会等)

→地域人材、外部人材で事業の立ち上げにあたる「事業共創チーム」を結成します。それぞれの役割は、右図のなかに表示しています。

>>> 丹波型事業共創コミュニティ概念図



▶▶▶ 「事業共創パートナー」という存在-つなぎ手、橋渡し役-

ビジネスコミュニティのメンバー間のつなぎ手となるのが、事業共創パートナー（以下「パートナー」という）です。パートナーは事業共創のプロセスで中心的役割を果たします。パートナーには、シリ丹バレー構想に共鳴し、地域への愛着を抱く地元（地区）の起業家・事業者を登用します。

パートナーは事業共創コミュニティの運営・コーディネートや事業共創チーム（デジタルコミュニティ）の編成、ビジネスプランの作成、事業・スタートアップの立ち上げのほか、事業シーズの発掘・洗い出し、人材発掘、資金調達を目的としたワークショップ、セミナー等のイベント開催等にもあたります。

▶▶▶ ビジネスコミュニティ、事業共創で地域の何が変わるのか?-成果、インパクト-

Point 01

新しいビジネスが生まれることで、地域課題の解決、地域資源の有効活用が実現

Point 02

新しいビジネスから生まれたサービスで、地域の生活は便利に（生活の質の向上）

Point 03

新しいビジネスへの投資や事業収益が地域内を循環することで、産業が活性化

Point 04

新しいビジネスに携わる人が地域に関わり関係人口化し、やがては移住・定住する人も出現することで、地域が元気に（地域再生）



地域だけでなく、関わる外部人材にもメリットがある事業共創
外部人材にとって、仮想空間（デジタルコミュニティ）を介して、簡単に事業に関わることが可能に（移住・移動なしの事業参加・地域貢献）。
ビジネスコミュニティの一員として、地域でリアルな体験・交流の機会をもち、深い関係性を築くこと（関係人口化）も選択できます

▶▶▶ 事業共創のステップ

ステップ1
シーズ発掘から
プロポーザル作成へ

シーズ発掘からアイデア交換、プロポーザル作成へ

地域の人たちで、ビジネスのシーズ（種）発掘を試みます。地域の弱みの克服（課題解決）につながるビジネスや地域の強み（地域資源）を活かすビジネスの可能性を議論し、アイデアを交換したうえで、事業共創パートナーを中心にプロポーザル（提案書）を作成します。



福住の地ビールに合うおつまみを作りたいけど、いいアイデアないかなー

地域の人たち
→ 事業共創パートナー

ステップ2
プロポーザルの発信
（オープンイノベーション）

プロポーザルの発信（オープンイノベーション）

プロポーザルを様々な媒体を使って内外に発信します。地域課題等を提示したうえで、ビジネスの実現に必要な人材、知識・スキル、資金等を公募します。プロポーザルでは、ビジネスの可能性とともに、地域、地域資源の魅力、固有価値をアピールし、事業・地域への人、もの、資金の「投資」を呼びかけます。

え、丹波の食材使ったら色々考えられるよ！
いいじゃん、アイデア会議してみよう



事業共創パートナー
→ 都市の外部人材

ステップ3
事業共創チームの結成

事業共創チーム（デジタルコミュニティ）の結成

応募のあった外部人材のなかから適任者を迎え入れ、オンライン上で事業共創チーム（デジタルコミュニティ）を結成します。チームでは、当初のプロポーザルを精査し、具体的なビジネスプラン（事業計画、資金調達計画）の作成にあたります。

今、スペインのピンチョスが熱いよねー。
楊枝を福住の竹で作って、バンブーピンチョスとか行けるんじゃないか？
和風テイストで！



事業共創チーム結成

ステップ4
事業、スタートアップ
の立ち上げ・運営

事業、スタートアップの立ち上げ、運営

ビジネスプランにもとづき、事業の立ち上げを行います。立ち上げ・運営にあたっては、必要に応じ、事業体となるスタートアップ（法人）を設立したり、協業する事業者と提携したりします。また、ビジネスコミュニティのメンバーである支援機関（行政、経済団体、金融機関等）に資金・ノウハウ等の面で助言・支援を仰ぎます。

「福住ピンチョス」で事業展開を考えています。企画書をご覧いただき、投資家にプレゼンの機会を設けていただけますか？

事業共創パートナー
→ 行政、金融機関等の支援機関

考えてみましょう。
でもまず試食させてください(笑)

地域最大の資源を活かしてビジネスを拡大しよう

「丹波ウッドバレープロジェクト」の始動

圏域の6割を森林が占める丹波では森林が最大の資源です。その人工林の多くが今、伐採時期を迎えています。脱炭素社会に向けてグリーン成長が叫ばれ、建物の木造化・木質化など、身の回りのもの木に変えていくウッドチェンジの流れが起きる中、人工林資源を活かした資源循環型林業、木材関連産業の拡大が期待されています。今後、木材関連産業のイノベーションによって持続可能な産業構造の構築を図るとともに、資源・エネルギーの安定供給、自給率向上をめざしていきます。



プロジェクトの趣旨

木材関連産業を循環型地域経済の核と位置づけ、丹波産木材の生産拡大、流通・加工の促進、関連産業（製材、住宅、木工、バイオマス発電等）の裾野拡大を目的に木材関連産業創造ネットワークの形成を図り、新事業創出をめざします。

プロジェクトがめざす方向性

生活創造産業の創造

丹波産木材を活用したライフスタイル・インダストリー（生活創造産業：住宅・オフィス、家具、什器、クラフト等）の創造

林業DXによる生産性向上と新規需要創出

スマート林業の推進による自動化・省力化、生産性向上を図るとともに、データバリューチェーンの構築により川下ニーズをリアルタイムで把握し新規需要の創出を促進

バイオマス発電の地産地消化推進

丹波産木材を活用したバイオマス発電の推進による管内電力自給率向上をめざし、川上～川下部門の連携強化

クリエイターズ・データバンクの結成とファブラボ（市民工房）の整備

管内4公園（丹波の森公園、丹波年輪の里、ささやまの森公園、丹波並木道中央公園）等で行っている木工教室・講座等の受講生、指導者等が参加する木工クリエイター人材ネットワークを結成し、初心者からプロ・作家までをつなぐ。4公園等の木工スペースをファブラボ、リビングラボ（市民工房）として整備し、製品開発に向けたアイデア・知識交換の場として活用



丹波ウッドバレー研究会の開催

丹波産木材を活用したライフスタイル・インダストリー（生活創造産業）等新産業の創造に向けた交流、情報交換、知識共有の場として立ち上げ、将来的には産学官民による新事業創造の場への発展をめざします。（シリ丹バレー推進協議会第IV分科会に認定予定）。

想定される参加者

丹波地域の木材、関連産業に関心のある個人・団体、林業家、製材業者、住宅メーカー、卸業者、建築家、木工クリエイター、学識者等の参加を想定。

関連連会員企業から技術者、クリエイター、デザイナー等をゲスト・アドバイザーとして招聘

研究テーマ例

- ・心地よく、機能的な木材家具・日用品の開発、ブランド化
- ・環境と健康に配慮した丹波型木造住宅の検討
- ・自然共生型オフィス環境の創造（木造化・木質化の推進）
- ・森のビジネスパーク構想の推進
- ・林業DXの加速化に向けた技術的検討

スケジュール

令和5年度より研究会を隔月で開催予定（年5～6回程度）



『森の情報発信基地』FOREST DOOR -旧神楽小学校-
株式会社フォレスト・ドア

*** 令和4年度 丹波すぐれもの大賞 ***

地域最大の資源を活かしてビジネスを拡大しよう

「丹波ユース起業アカデミー」の開講

地域の若者に定住・環流（Uターン）を促すには、地域のビジネスに夢や希望を抱いてもらう必要があります。そこで、地域の第1線で働く経営者の方などにふるさとへの想いや自らの経営哲学、仕事のやりがい、起業・継業の成功体験などを若者に語っていただく講座を開講します。講師陣の感動を呼ぶ熱い講義、リアルな現場体験、ロールモデルとのふれあいにより、若者の心を揺さぶります。



アカデミーの概要

- ・若者（高校生、大学生、新社会人等）を対象とする1年間、通年の講座（年間10回程度）です
- ・地元企業経営者、移住起業家、大学教員、若手専門人材などが講師を務めます
- ・経営学の基本を学んだのち、ビジネスプランの作成にあたります
- ・座学だけでなく、地域や企業の方々との交流会やものづくり等の現場見学会も実施予定です
- ・講座は丹波の森公園内「森のオフィス（通称）」などで実施します

ビジネスアイデアの交換を活発に —コワーキングスペース・ネットワークの活動本格化—

昨年6月の総会時に立ち上げたコワーキングスペース・ネットワークの活動が本格化します。管内コワーキングスペース8施設で構成する同ネットワークでは、大阪、神戸等都市部のコワーキングスペースとのネットワーク化を推進するとともに、森のオフィス（通称）等でミニワークショップを定期的を開催し、メンバー間でビジネスアイデアを交換する機会を増やしていきます。ミニワークショップでは、まずは食分野における付加価値の高い商品・サービス開発（フードテック、六次化、ガストロノミーツーリズム等）について語り合います。



新しいビジネス空間を活かそう —「森のオフィス（通称）」の運用開始—

丹波の森公苑内に4月、建物改修によりコワーキングスペース「森のオフィス（通称）」（旧アトリエ棟）が完成します。この場をシリ丹バレー推進協議会では、丹波ユース起業アカデミーや女性起業ネットワーク、コワーキングスペース・ネットワーク等の活動の場として活用し、地域における事業創造のハブとしての発展をめざします。また、連携先の関係連の会員企業等に対し、テレワーク、ワーケーションの場としての利用を呼びかけ、域外との交流・連携を促進します。



▶▶▶ 森のオフィスの概要

木造3階建、延べ床面積約30㎡	コワーキングスペース（利用料金・条件は未定）
内部にはキッチンスペースもあり、しごと、講義のあとの交流会などの開催も可能です。森のオフィスの運営は、今後シリ丹バレー推進協議会メンバーを含む運営委員会が担います。	
(利用は丹波の森公苑管理課に申請)	



ビジネスの専門人材を見つけよう —副業マッチングシステムの構築—

現在、ITなど専門分野の人材は需要の多い都市部に集中しています。専門分野についてはサービスを外注することもできますが、経営戦略上、専門分野を内製化したほうが効率的、効果的なケースもあります。しかし、地方の中小企業では、その経営規模からして専門人材を雇用するのはそもそも困難であり、また求人を行っても、採用がなかなか難しいのが現状です。

一方近年企業では、社員のスキルアップや優秀人材の獲得・定着化などを理由として、社員の副業を認めるところが増えてきています。コロナ禍でのテレワークの普及も、副業を後押しする要因となっています。そこで、シリ丹バレー推進協議会では、丹波県民局と連携協定を結ぶ関西経済連合会や地元商工会の協力を得て、丹波管内の企業・団体等に副業人材を紹介・あっせんする仕組みとして、副業マッチングシステムの構築を図ります。

▶▶▶ 副業マッチングシステムの仕組み

シリ丹バレー推進協議会では、メンバー企業・団体に副業人材のニーズ調査（商工会等地元経済団体に対しても、会員企業への同様の調査を依頼）を実施し、データベース化。データベースを関西経済連合会事務局と共有し、同事務局より社員の副業人材化を認めている会員企業に情報を社員に提供しよう依頼。応募を希望する社員は協議会を介して副業人材を求める企業・団体とコンタクト。双方合意すれば、オンラインベースで副業をスタートしていただきます。

地域発イノベーションの成果をたたえ、発信しよう —「丹波イノベーションアワード」の創設—

丹波地域において、地域発イノベーションの成果として生まれた製品、食品の革新性を世に広く知らしめ、その販売促進等を後押しするため、「丹波イノベーションアワード」を創設します（従来の「丹波すぐれもの大賞」を継承・発展させたもので、技術の先進性、企画の獨創性などに焦点を当てた表彰制度です）。丹波イノベーションアワードでは、もののイノベーションだけでなく、地域活性化への貢献、地域資源の有効活用など、地域社会に変革をもたらす取組も表彰します。



AGILEST/パナレーサー株式会社
…令和4年度 丹波すぐれもの大賞…

丹波イノベーションアワードの概要

部門

以下の3つの部門において審査を行い、特に優れた評価を受けた企業・個人等を表彰します。

プロダクト・イノベーション部門

革新的、先進的な技術を用いて
開発・製造した製品・商品

フード・イノベーション部門

丹波地域の特色を活かした
独創的で、
優れた品質の食料品

ソーシャル(地域)イノベーション部門

地域社会に変化をもたらす取組・仕
組み(イベント等も含む)

募集、選考・表彰

自薦又他薦により表彰対象を応募。審査委員会で選考し県民局長が表彰

広報、販路拡大支援

丹波イノベーションアワードの表彰を受けた製品・商品等について広く内外に発信。シリ丹バレー推進協議会の事業(国際フロンティア産業メッセ等への出展等)において、製品・商品等のPRを実施し販路拡大を支援します。



完全人工光植物工場で生産したレタス
株式会社モーベルファーム

… 令和4年度 丹波すぐれもの大賞 …

海外とのビジネス交流を活発にしよう

「グローバル丹波2025事業」の推進

「これまで出会ったことのない人同士をつなぐ」ことをモットーとするシリ丹バレーでは、海外との交流も積極的に推進しようとしています。例えば、2023(令和5)年2月、丹波女性起業家ネットワークは、米国オレゴン州女性起業家グループと交流会(クロストーク)を実施し、ポストコロナの市場動向等について活発に意見交換を行いました。

2025(令和7)年の大阪・関西万博時に、丹波地域のフィールドパビリオンには、海外からも多くの訪問客がやってきます。その際、丹波ならではのツーリズム(コト体験)でもてなしするだけでなく、持続可能な暮らしを支えるビジネスのあり方やデジタル技術を活かした新ビジネスの創造など、ビジネスにまつわる普遍的なテーマで世界の人々と対話し交流したいと考えています。そのための仕組み・仕掛けを「グローバル丹波2025事業」では検討していきます。



シリ丹バレー構想プロジェクト

その他継続事業

— 第1の柱 —

ネットワーキング、交流・協業の促進

シリ丹バレー推進協議会の運営

→ 共同事業の企画・実施、関経連等との交流・連携
事業の推進等

広報活動の強化

→ 協議会HPの運営、
他地域イノベーション・エコシステムとの連携等

— 第2の柱 —

地域産業のDX化促進

DXをテーマとしたセミナー開催

→ みなと銀行、NIRO等との連携により開催

IT人材を紹介するマッチングイベントの開催

→ 関経連等との連携により開催

スマートコミュニティ・プロジェクト(分科会II)の推進

— 第3の柱 —

起業・創業・継業の支援

民間副業人材の活用

→ 関経連等との連携による

民間副業人材活用のためのシステム構築(再掲)

資金調達支援

→ 地元金融機関と連携した手数料支援や
技術・経営力評価制度等を連動した資金支援を実施

たんば女性起業家ネットワーク・プロジェクト

(分科会I)の推進

— 第4の柱 —

新たなビジネスの場・拠点創出

丹波の森公苑アトリエ棟を改修し、コワーキングスペース
(森のオフィス(通称))として活用(再掲)

ワーケーションの推進

→ コワーキングスペースにもなる

農家民宿・ゲストハウス等をネットワーク化

たんばコワーキングスペース・ネットワーク・プロジェクト

(分科会III)の推進

分科会(プロジェクト)活動

— 分科会I —

女性起業家ネットワーク

プロジェクトリーダー

谷水ゆかり((特)Tプラス・ファミリーサポート理事長)

女性起業家・起業志望者間の交流・連携を促進

— 分科会II —

スマートコミュニティ・プロジェクト

プロジェクトリーダー

辻 正次(神戸国際大学学長)

「データ連携基盤」や「地域アプリ」の導入のあり方等
について研究

— 分科会III —

コワーキングスペース・ネットワーク

プロジェクトリーダー

小橋昭彦((特)情報社会生活研究所事務局長)

丹波地域と都市部のコワーキングスペースの相互連携の推進。ミニワークショップの定期開催(再掲)